



しあわせ信州

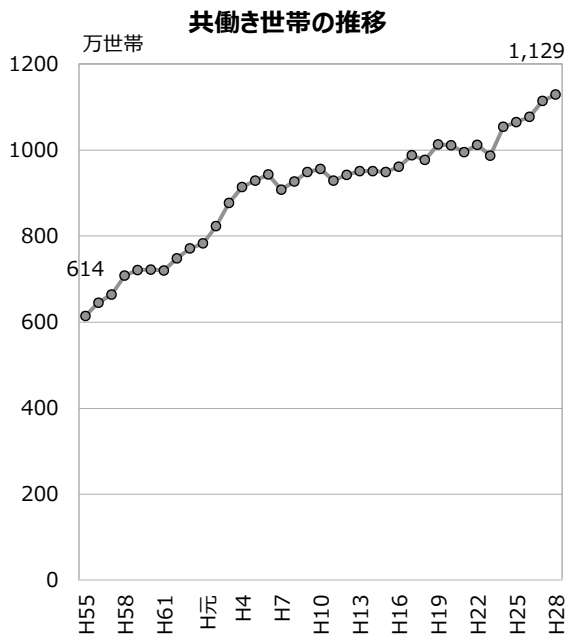
資料 1

最近の食育をめぐる状況について

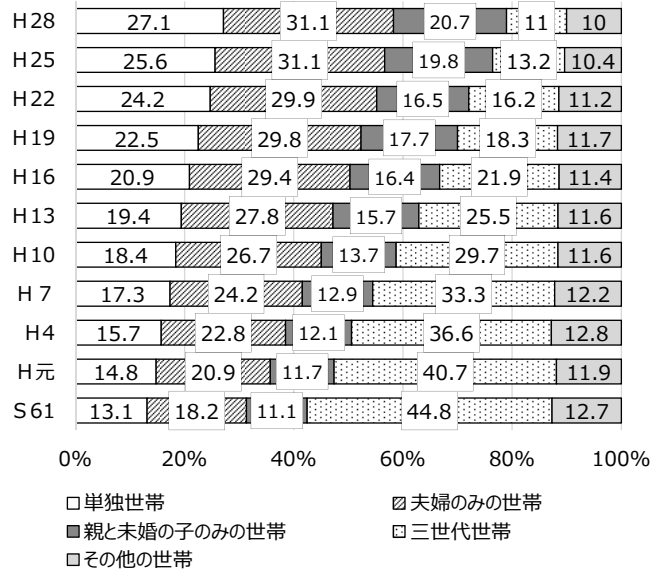
(1) 食生活をめぐる状況

生活様式等

- 共働き世帯が増加している。
- 65歳以上の高齢者が、単独世帯及び高齢者のみの世帯であり、割合は年々増加している。



65歳以上の者のいる世帯の世帯構造の年次推移 (%)

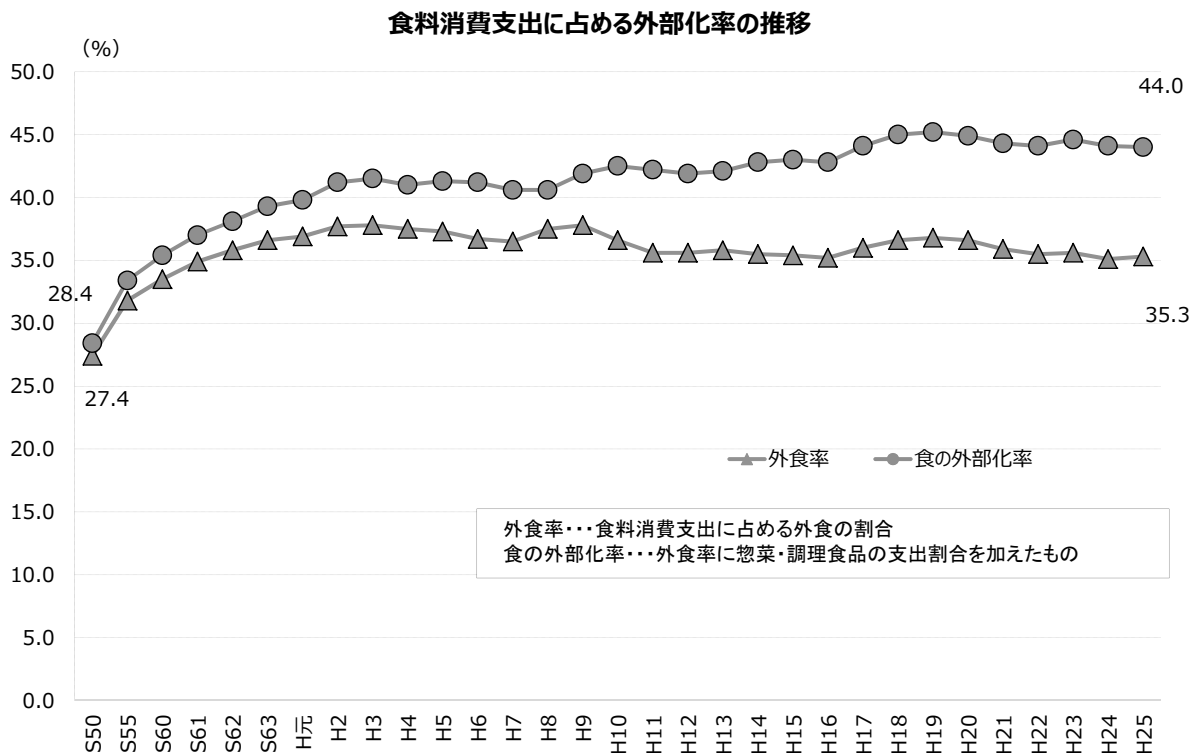


厚生労働省「厚生労働白書」、内閣府「男女共同参画白書」、総務省「労働力調査特別調査」(2001年以前)及び総務省「労働力調査(詳細集計)」(2002年以降)

国民生活基礎調査
※「親と未婚の子のみの世帯」とは、「夫婦と未婚の子のみの世帯」及び「ひとり親と未婚の子のみの世帯」

食を取り巻く社会環境

- 外食への依存や、惣菜や調理食品の利用が増加し簡便化が進んでいる。

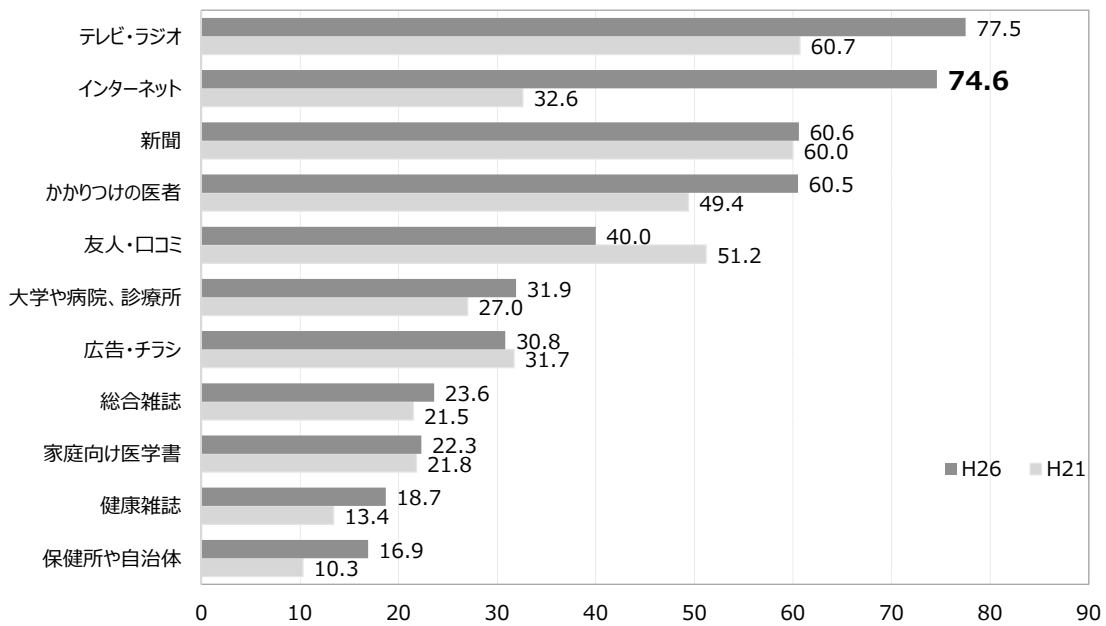


外食率・・・食料消費支出に占める外食の割合
食の外部化率・・・外食率に惣菜・調理食品の支出割合を加えたもの

インターネット等の普及

- 食品や食べ方など、食に関する情報が増大している。
- 健康に関する情報を、インターネットから得る者が増加している。

健康に関する情報への接触度

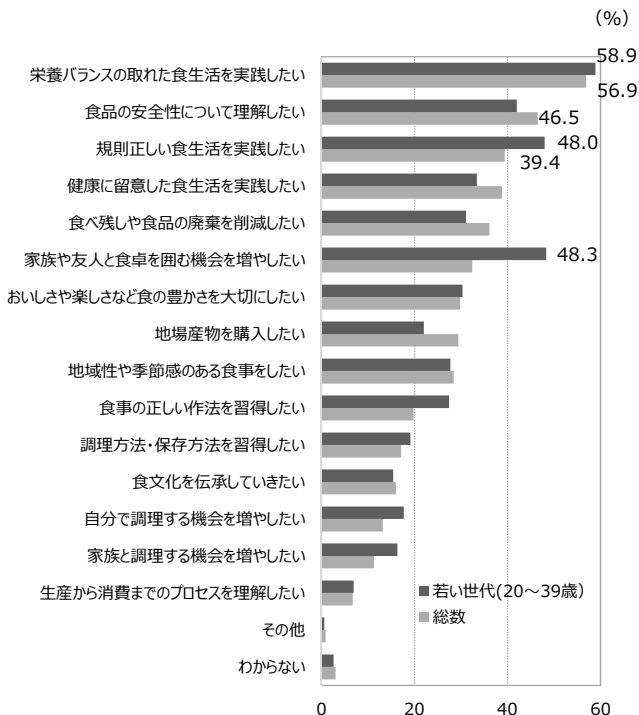


H21…健康に関する意識調査(NHK放送文化研究所)
H26…健康意識に関する調査(厚生労働省政策統括官付政策評価官室委託)

栄養のバランス

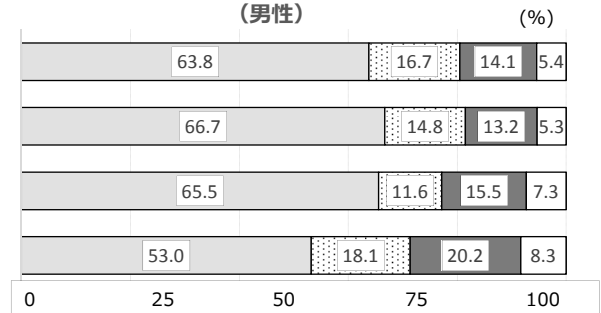
- 栄養バランスのとれた食生活を実践したいという者が、最も多い。
- 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている者は減少傾向にある。

今後の食生活で特に力を入れたい食育の内容

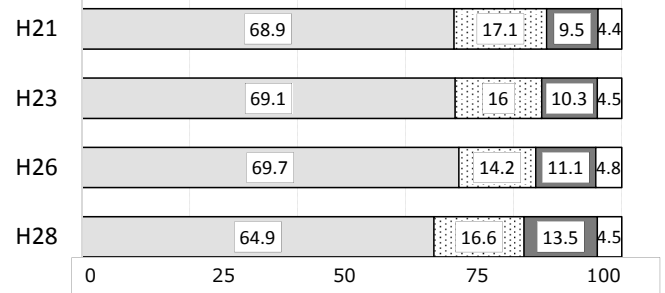


平成28年度「食育に関する意識調査報告書」(農林水産省)

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている者の推移 (男性)



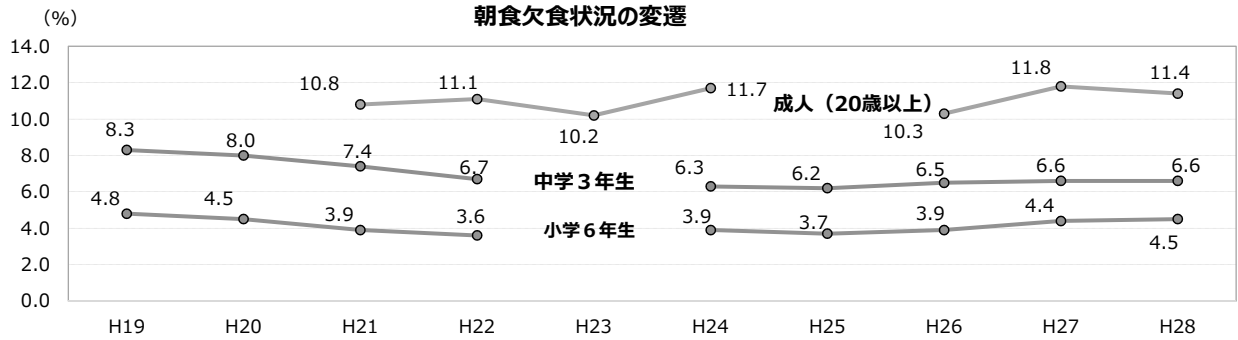
(女性)



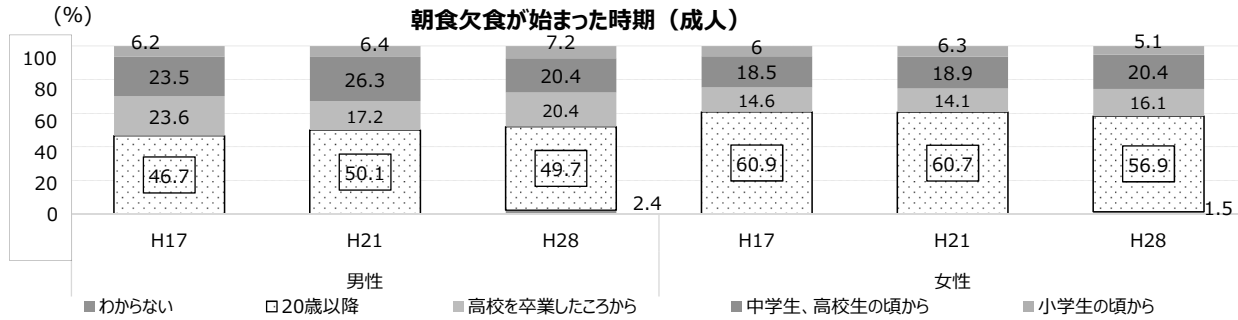
□ ほぼ毎日 □ 週に4~5日 ■ 週に2~3日 □ ほとんどない
「食育に関する意識調査」(H27まで内閣府、H28農林水産省)

朝食の欠食

- 朝食の欠食者の割合は、経年変化はあまりみられない。また、小中学生よりも成人の方が高い。
- 欠食が始まった時期は、20歳以降からという者が男女ともに半数近くを占めている。



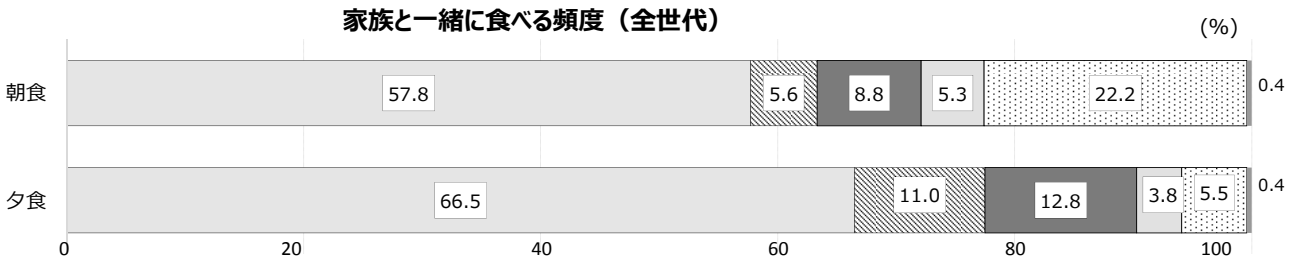
成人…「週に2〜3日食べる」「ほとんど食べない」と回答した人の割合(食育に関する意識調査:内閣府・農林水産省)
 児童・生徒…「あまり食べていない」「全く食べていない」と回答した人の割合(全国学力・学習状況調査)



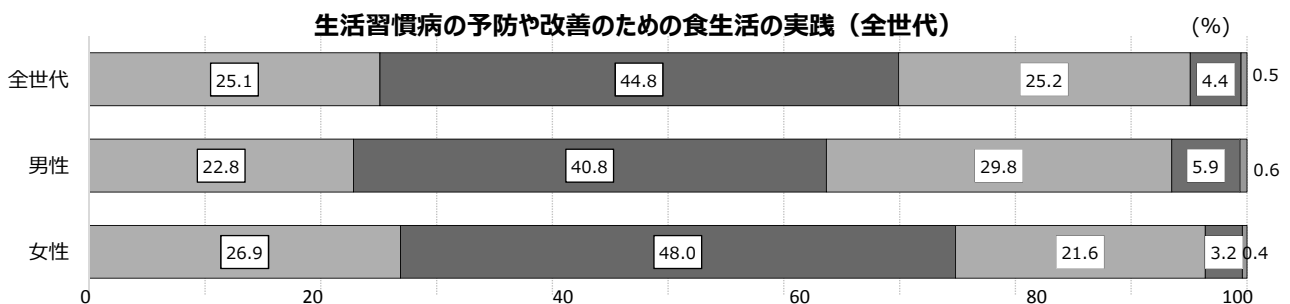
H17,H21…国民健康栄養調査(厚生労働省) H28…H28食育に関する意識調査(農林水産省)※朝食を食べる頻度について「ほとんど食べる」以外の回答をした人が対象

共食・孤食、生活習慣病の予防や改善

- 家族と一緒に食べる頻度は、6割程度である。
- 生活習慣病の予防や改善のために普段から「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と回答した者は、全体で約7割で女性で高く、男性で低くなっている。



□ほとんど毎日 ▨週に4〜5日 ■週に2〜3日 □週に1日程度 □ほとんどない ■無回答 H28食育に関する意識調査(農林水産省)※家族と同居している人が対象



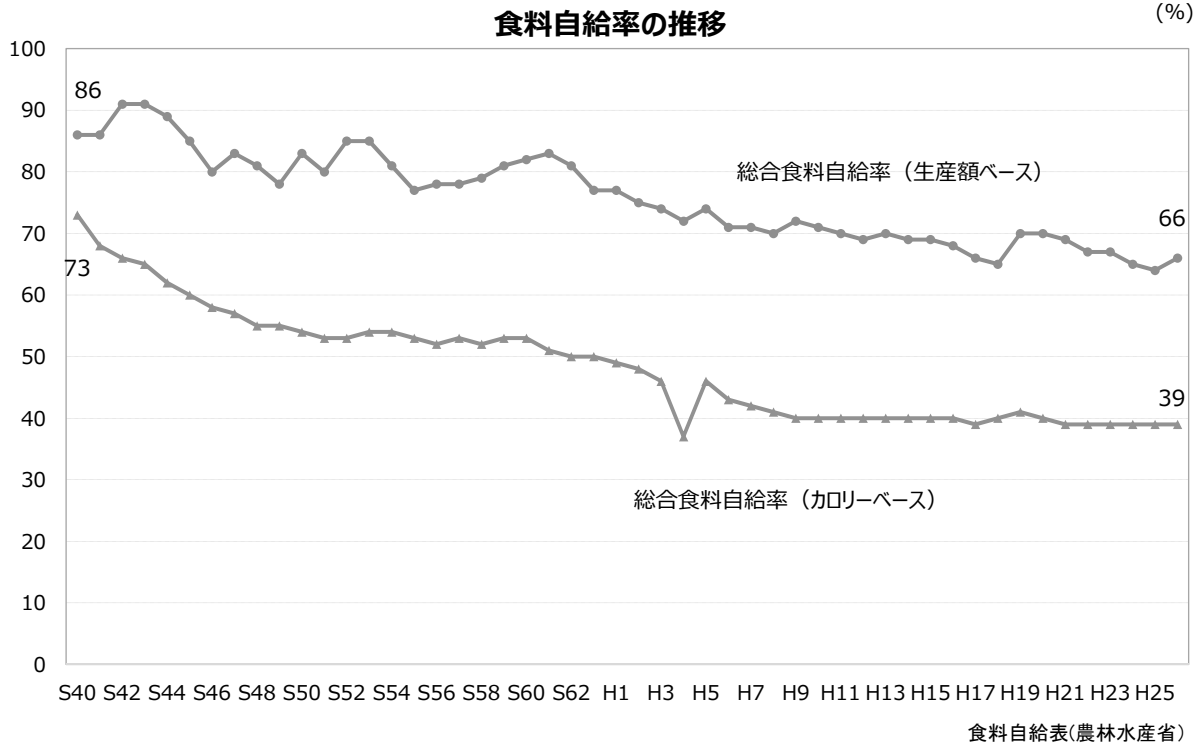
□いつも気をつけて実践している ■気をつけて実践している □あまり気をつけて実践していない ■全く気をつけて実践していない ■わからない

H28食育に関する意識調査(農林水産省)

(2) 生産から消費に至る食の循環への理解の状況

食料自給率

- 食料自給率は、長期的に低下傾向にある。



S40 S42 S44 S46 S48 S50 S52 S54 S56 S58 S60 S62 H1 H3 H5 H7 H9 H11 H13 H15 H17 H19 H21 H23 H25
食料自給表(農林水産省)

農林漁業体験

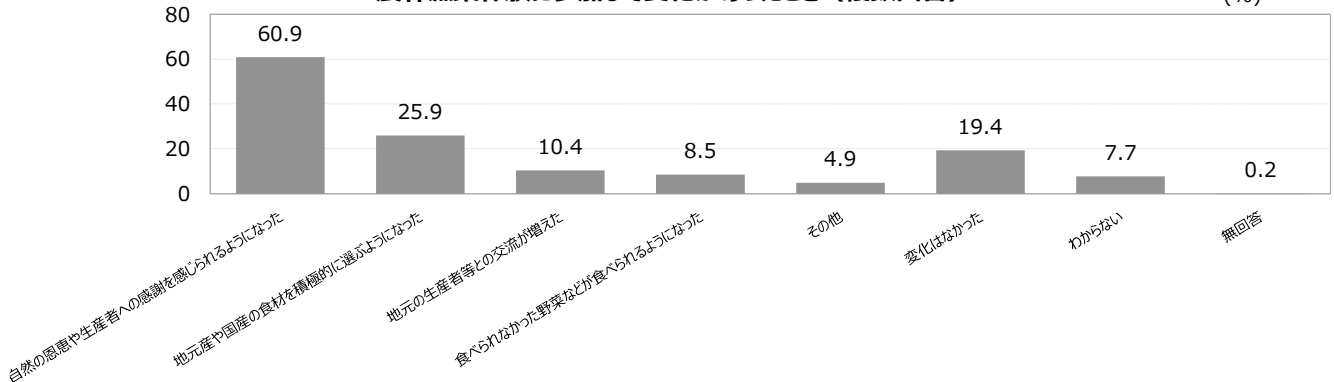
- 農林漁業体験を経験した者 (本人又は家族) の割合は約3割。
- 農林漁業体験に参加して、「自然の恩恵や生産者への感謝を感じられるようになった」「地元産や国産の食材を積極的に選ぶようになった」という者が多く、農林漁業体験を契機として、食やそれを支える人たちへの関心に変化が見られる。

本人又は家族が、農林漁業体験に参加したことがあるか。



食生活及び農林漁業体験に関する調査(H28 農林水産省)

農林漁業体験に参加して変化があったこと (複数回答)

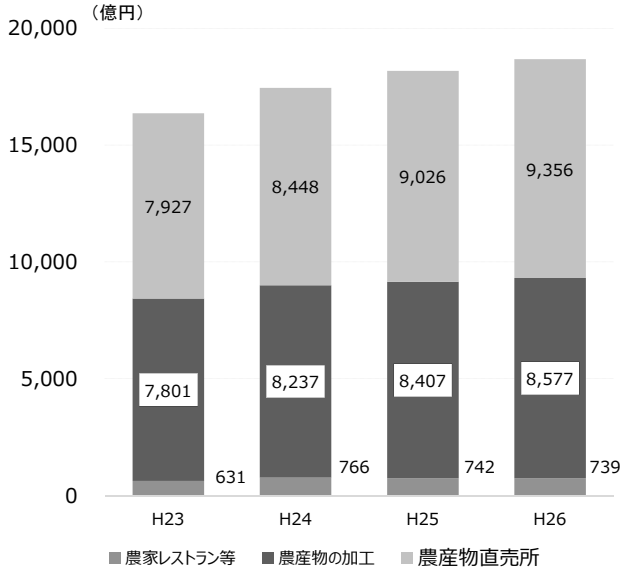


食生活及び農林漁業体験に関する調査(H28 農林水産省)
※農林漁業体験に本人又は家族が参加したことがある人が対象

地産地消

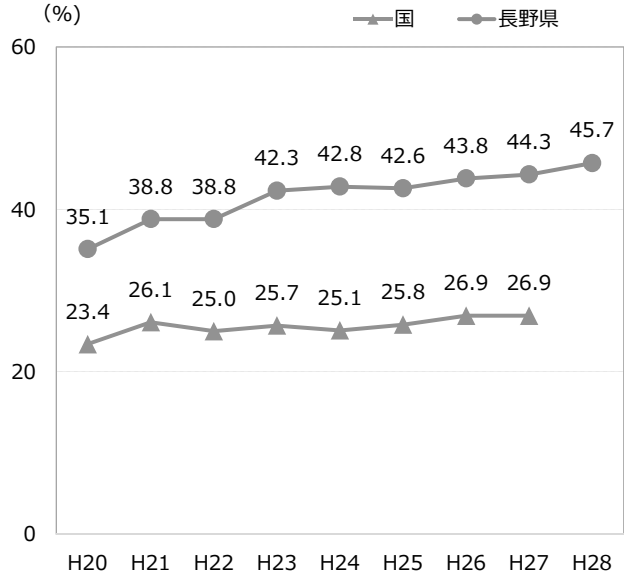
- 自ら生産した地場産物等を活用する農産物直売所、農産物の加工、農家レストランの年間販売金額は増加傾向にある。
- 子どもたちへの地産地消としての取組である、学校給食への地場産物の使用割合は、増加傾向にある。長野県は、国と比べると使用割合が高い。

農産物直売所、農産物の加工、
農家レストランの年間販売金額



第6次産業化総合調査報告(農林水産省)
※H23は、農協等が運営するレストランは含まれていない。H23、H24は、一部地域除外

学校給食における地場産物の利用割合の推移



国: 学校給食栄養調査(文部科学省)※H23は、一部の県を除く
県: 長野県農政部、教育委員会調べ

食文化

- 郷土料理や伝統料理など、料理や作法などの食文化を受け継いでいると回答した人は、約6割。
- 2013年、「自然を尊ぶ」という日本人の気質に基づいた食に関する「習わし」として、和食が無形文化遺産に登録された。

Nature
無形文化遺産とは
無形文化遺産は、伝統的慣習や社会的慣習、芸術工芸などの無形文化であり、コミュニティの集約力や文化の継承を担っています。和食は「無形文化遺産」に認定されています。これにより、和食の無形文化遺産の重要性が広く知られることに加え、ユネスコは人類の無形文化遺産の表徴の一覧表(代表一覧表)に追加されています。政府は、この代表一覧表に登録された食文化を保護し、継承することを目的としています。

取組への賛同
農林水産省は、関係者の賛同を得て、食文化を推進しています。2017年9月に開催された国連食文化会議では、約90%の国が申請への賛同を表明しました。

お問い合わせ先
農林水産省大臣官邸政策推進部政策推進室
TEL: 03-4730-4120(内線)03-4730-4000
Facebook: @mhlw_japan | 検索欄に「和食」
http://www.facebook.com/mhlwshokukokuheritage
日本食文化 検索

農林水産省

Respect for Nature
2013年6月、政府は「和食: 日本人の伝統的な食文化」に関して、和食をユネスコの無形文化遺産に登録しました。
申請では、「和食」を料理の形ではなく、「自然を尊ぶ」という日本人の気質や作法に関する「習わし」として提出しています。
和食は、日本の食文化、食生活の中心です。

特徴①: 多様で新鮮な食材と素材の味わいを活用
日本の食文化は、和、洋、中華の異なる食文化が融合して、多様な食材と素材の味わいを活用しています。また、食材の味わいを活かす調理法が特徴です。

特徴②: バランスがよく、健康的な食生活
和食は、栄養バランスが良く、健康的な食生活を促します。また、季節の食材を活用し、健康的な食生活を促します。

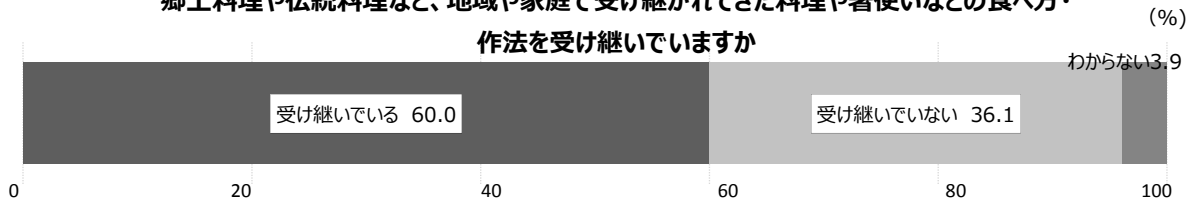
特徴③: 自然の美しさの表現
和食は、自然の美しさや四季の移り変わりを表現する季節の食材や調理法を活用し、自然の美しさや四季の移り変わりを表現しています。

特徴④: 年中行事との関わり
日本の食文化は、年中行事や祭りに深く関わっています。自然の恵みや季節の食材を活用し、年中行事や祭りに深く関わっています。

守る。育てる。繋げる。
私たちの食文化を守り、育て、そして継承していくには、自然の恵みや季節の食材を活用し、年中行事や祭りに深く関わっています。食文化を守り、育て、繋げることで、食文化を継承し、発展させていきます。

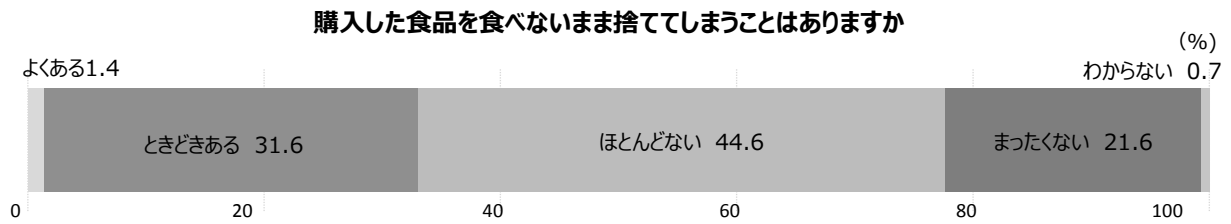
農林水産省リーフレット

郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や箸使いなどの食べ方・作法を受け継いでいますか

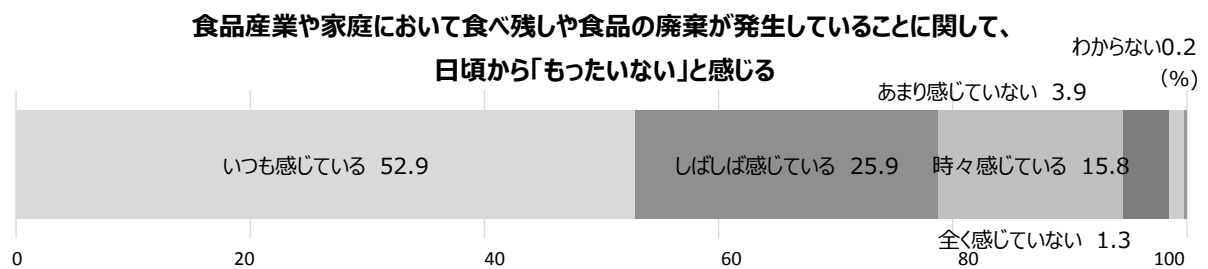


消費行動

- 購入した食品を食べないまま捨ててしまうことが「よくある」、「時々ある」と答えた者は、約3割を超えている。
- 一方で、食べ残しや廃棄があることを「もったいない」と、「いつも感じている」、「しばしば感じている」、「時々感じている」者は9割を超える。



H28食育に関する意識調査(農林水産省)



H28食育に関する意識調査(農林水産省)